

# 大覚寺大沢池測量調査報告書

2001 年 11 月 3 日

草魚バスターズ実行委員会

測量班

## 1. 概要

位置 京都市右京区嵯峨大沢町4 大覚寺大沢池地先

測量調査目的 大沢池景観修復の為の事前測量調査  
大沢池水深調査および樹木位置測定調査のための基礎データ収集

既存資料 昭和48年作成 縮尺 1/500 現況平面図  
作成年月日不詳 縮尺 1/500 現況平面図  
B.M=10.230 池岸土留杭上面

## 2. 大沢池水深測量調査・岸部断面測量調査方法

トラバー点選点方法	巻尺 10 m による一定間隔設置方法
縦断線形	樋門-----余水吐（延長 215 m）の直線
横断測点決定方法	選点図面上で作業量を推定して決定---8 本
池部測量調査方法	5 m スタッフ（箱尺）による水面からの水深測定方法
岸部断面測量方法	測量 2 m ポール 2 本によるポール横断測量

## 3. 測量成果

### (1) 測定諸元

大沢池 N.W.L	=	9.85 m
大沢池最大水深	2.38 m	（へドロ上部まで）・・・EL= 7.47
大沢池最大水深	3.20 m	（へドロ下部まで）・・・EL= 6.65
大沢池最大へドロ深さ	0.90 m	

### (2) 測量図

現況平面図 1/500	・・・	1 枚
縦断図 1/500・1/100	・・・	1 枚
横断図 1/500・1/100	・・・	8 枚
岸部断面図 1/100	・・・	6 枚
1/500 トラバー点選点図・標高点プロット原図	・・・	一枚
岸部断面図野帳（10 枚）		
大沢池縦横断測量野帳（一冊）		

#### 4. 主要作業内容

##### (1) 事前調査

2001年8月11日(土) 晴れ 午後1時30分頃～午後3時

現地踏査・・・川口、河原、林

観察事項 1) 現地および現況平面図の精査

2) 仮 B.M の調査および選点・・・池岸土留杭上面 EL=10.230 と決定

3) 縦・横断法線の検討・・・樋門～余水吐を結ぶ直線 215m と決定

4) 池部断面測定方法の検討

2001年8月12日(日)

1) 縦断線の確認・検討および図化

2) 測量方法検討

1. トラバー点 選点方法・・・巻尺で10mを計測して設置する。同時に選点図に現地でプロットする。

2. 岸部断面測量方法・・・ポール横断測量

3. 池部水深測量方法・・・5m スタッフによる水面からの水深測定

4. 池部ボート横断方法・・・ロープを張ってロープを手繰り寄せながら進行

5. 横断線の決定方法・・・トラバー点選点図から当日の作業可能本数を考えながら適当な数と位置を決定する

##### (2) 測量

2001年8月18日(土) 晴れ

午前10時30分 発会式

午前11時00分 測量班結成(春田、川口、竹市、学生8名)

準備作業・・・ロープに10mピッチでマーキングする

午後1時30分 トラバー点選点設置・プロット開始

午後3時30分 トラバー点選点設置・プロット終了 95点

午後4時00分 横断法線検討・・・8本に決定

ボートの下準備作業

2001年8月19日(日) 晴れ

午前8時30分 大沢池横断水深測量調査開始

大沢池 N.W.L 測定・・・B.M - 38 cm

午前10時00分 大沢池岸部断面測量調査開始

午後2時00分 大沢池岸部断面測量調査終了

大沢池岸部断面図図化開始

午後2時30分 大沢池横断水深測量調査終了

大沢池横断図計算及び標高点プロット開始

午後4時00分 大沢池岸部断面図図化終了

午後4時30分 大沢池平面図標高点プロット終了

### (3) 整理・図化

2001年8月22日(火)

大沢池現況平面図等高線図化作業終了(下書き)

2001年9月16日(日)

大沢池横断図受け取り

2001年9月18日(火)

大沢池縦横断面図チェック及び図化終了・岸部断面図チェック終了

2001年10月7日(日)

大沢池現況平面図入手

2001年10月9日(火)

大沢池現況平面図チェック終了

## 5. 考 察

### (1) 平面図について

トラバー点をすべてコノエ鋺(砂利道用)で設置した。

横断測量測点間隔はおおよそ 30 m で行い、水深測定間隔は 10 m ピッチで行なった。等高線図化作業は比較的スムーズに進んだ。ほどよい間隔に標高点があった。

精度的にも今回の計画作業には影響のない誤差で等高線ができあがった。

### (2) 水深測定について

樋門管底高を  $EL=7.60$  と推定したが、数字上はヘドロ上部における最低高さは  $EL=7.47$  であり、ほぼすべての水が樋門のゲートの開放により抜けるはずである。しかし、No.1 の右側の標高(ヘドロ上部)がほとんど  $EL=8.00$  であるため、No.2 の右側標高  $EL=8.00$  の等高線(ヘドロ上部)で水たまりができる可能性がある。その場合の水深はおおよそ 50 cm である。

## 6. 測量調査使用機材

1. スタッフ(箱尺) -----1本・・・購入(現地受け取り)
2. 巻尺(30m エスロン) -----1本・・・借用
3. 切刀ハンマー(1kg) -----2本・・・購入(現地受け取り)
4. コノエ鋺(10cm) -----120本・・・購入(現地受け取り)
5. 木杭(4.5 x 4.5cm) -----10本・・・購入(現地受け取り)
6. ロープ-----200m・・・購入(搬入)
7. 測量 2 m ポール-----2本・・・購入(現地受け取り)
8. コンベックス・・・・・・・・・・・・持参